

一つの計略を安んじ出。官軍勢は戦ひを浅井長政小まきを置。東方砲  
撃て遠慮小城を攻取と自號小ト辞て進む程を東北流布本東南との山際  
より磯野丹波守圓正。三百余騎にて猛進す。船倉勢のうちより後炮うち起  
標兵す。小小勢をも新隊の磯野名小負勇將なりと云。自身正騎小掌  
を進め瞬もせば通達。五百餘騎裏崩して散乱を遣  
圖と抜きを先擄ま。躰勢尖く狂破り。浅井が隊伍へ横さぬ小爆火  
の如く敵て轟る。木下もしく力を得て。四方一齊小激叫す。火水小火見  
と攻着をきび二度と听て大軍も。など敵をも小力あるべき。浅井船倉  
の軍勢も想崩きと取らる。大將長政。船倉。木下をもども  
方柄なく恩ひよぐ敵姫と。小谷の方へ祀をもと木下。磯野。官軍の全  
士。一隊ふうて追駆す。敵を殺車を救。を限。勝利揚てよくかずの

城(退陣し)殿授(誠ともと)收阜(勝)。軍北次第と言はれ。久主げ  
信安人小感愧せらきと。く褒賞せらきと。不波富田の事。はく秀  
吉(智)仁(智)休(え)。真小忠信を烈しましる。遠遣官軍の後援とて朝  
毛(毛)を勝利を得。軍の義をも思はざる。生陣の足も異見をせし  
遠援軍小博を感至。いふるまが敵れ。大軍と。おまで易く吹哨をす  
易と視切る。ふ小や。最若士勇種小もえをとら。二度。お敵兵一丈  
も立ちまど見苦しき。追駆北せ。こと敵の弱くことぶらもあらず。し縛ゆぐ  
不思議の御奉手と。訊ね。小秀吉。荒爾と笑ひ。宣ふ如く。長政の意  
を。おまの敗軍小憤怒滿面もつる。唯勇種をのみもよこして慮り重  
ふ。又京鏡の加勢を。おまえて戰を。そもて今日官軍を攻ふ。小二